

# いくつ戦争の歴史を見つけられたかな？



気づいたことを  
メモにとろう！

月 日

**1** **【忠魂特攻隊の碑】**

特攻隊員の魂を鎮めるため、特攻隊として旅立つ前に隊員が宿泊した中村家旅館（加古川町寺家町）に建てられていました。現在は、鶴林寺の境内にまつられています。

月 日

**2** **【旧陸軍加古川飛行場】**  
(尾上飛行場)

1937(昭和12)年12月に旧陸軍の飛行場として開設。常に30機ほどの戦闘機があり、関西地方の防空の重要地点として機能しました。終戦前には、関東・中部地方から知覧基地(鹿児島県)に向かう特攻隊の中継・出撃基地に使われました。

上空から見た「加古川(尾上)飛行場」昭和22年米軍撮影(上谷昭夫氏提供)

別れの儀式をする特別攻撃隊「第76振翼隊」(上谷昭夫氏提供)

尾翼に「カコ川」と書かれた戦闘機(上谷昭夫氏提供)



月 日

**3** **【平和祈念碑】**

旧陸軍加古川(尾上)飛行場の歴史を伝えようと、地元の有志らが跡地である尾上公民館前の遊歩道に設置しました。尾上公民館内には、同飛行場のパネル展が常設されています。

旧陸軍加古川(尾上)飛行場正門(上谷昭夫氏提供)

月 日

**5-2** **【軍用線跡】**

弾薬を運ぶためにひかれた鉄道で、**5**旧陸軍航空補給廠神野分廠まで約3.5km 続いています。

月 日

**5** **【旧陸軍航空補給廠神野分廠】**(神野弾薬庫)

1937(昭和12)年頃、爆弾の製造や保管のために建てられ、ここから爆弾が戦地に送られていました。この建物は2007(平成19)年に取り壊されましたが、裏門の跡は今も残っています。

**【裏門の跡】**



月 日

**4** **【旧陸軍航空通信学校尾上教育隊】**

全国から集まった約1,500人の少年通信兵が教育を受け、寝泊まりをする建物がありました。戦後は浜の宮中学校の教室となり、1950年代後半に取り壊されましたが、後世に伝えるため一部が保存されました。現在も浜の宮公園の松林の中に、洗面所の跡など、建物の基礎や門柱が残っています。

月 日

**7** **【聯隊橋】**

新井用水をまたぐ県道148号線にかかる橋。橋の名は付近の旧陸軍高射砲連隊に由来するといわれています。訓練中の兵士たちや、爆弾を荷造りするための材料を積んだ馬車が行き交っていました。

**【兵士の墓】**

月 日

**9** **【旧陸軍高射砲第三連隊基地】**  
(のちに旧陸軍航空通信学校加古川教育隊)

加古川(尾上)飛行場を守るため、1938(昭和13)年に、高射砲連隊(上空からの攻撃を地上から迎撃する部隊)が設置され、1943(昭和18)年には、高射砲連隊に代わり旧陸軍航空通信学校加古川教育隊が設置されました。現在は、ハリマ化成株式会社内に、一部の建物が残っており、また正門・南門も当時のものになります。

(上谷昭夫氏提供) ※立ち入りはできません。

月 日

**6** **【機銃掃射跡が残る円形の句碑】**

上部には、終戦直前の1945(昭和20)年7月30日に米軍戦闘機の機銃掃射による攻撃で銃弾を受けた跡が残っています。近くの軍事施設への攻撃に、住民が巻き込まれることもありました。

野口町水足1157-1付近

月 日

**8** **【神野弾薬庫引き込み線】**

加古川駅から神野弾薬庫に爆弾や兵士を運ぶために引かれた軍用線(鉄道)の名残りである頑強な「橋げた」が今も残っています。弾薬庫の爆弾や弾薬は、中国やベトナムなどいろいろな戦地へ運ばれました。

月 日

**10** **【くんれん橋】**

県道386号線から新井用水にかかる橋。高射砲連隊の訓練場に通う兵士たちがこの橋を往復したことから名付けられたといわれています。

神姫バス バス停「卸団地」南